

## 境港市の『水木しげるロード』整備と 商店街の変容に関する考察

澤田廉路\*

本研究は水木しげるロード整備の境港商店街へ及ぼした要因とその変容について考察したものである。多くの地方の商店街が衰退している中で、境港の妖怪漫画キャラクターのブロンズ像を利用した取り組みは集客を上げ、成功事例として注目を浴びている。その要因分析で、(1)ブロンズ像の継続的な設置とともに、漫画キャラクターを利用した演出、誘致のプロジェクトの実施、(2)行政、公的機関、民間団体、企業、住民の立場を活かした連携、(3)ロード整備に積極的なエリアでは漫画キャラクターの商品に転換させたことなどが明らかとなった。

### A Study on the 'Mizuki Shigeru Road' Project to Change of the Shopping District in Sakaiminato City

Toshimichi SAWADA\*

This study investigates how the “Mizuki Shigeru Road” project revitalized the shopping district in Sakaiminato. As many shopping districts in local cities are facing economic downturns, Sakaiminato has successfully overcome this by renovating and utilizing bronze statues of Youkai Manga characters by Mizuki Shigeru. These results were obtained because of: 1) Use of bronze manga statues and hosting events based around them. 2) Partnership between public administration, volunteers, and citizens. 3) Active participation of local shops promoting manga character goods, reviving the shopping district.

#### 1. 研究の背景と目的

地方都市の商店街の空洞化、衰退は全国各地で大きく深刻な問題とされている。日本商工会議所が実施した2004年度の全国調査では中心市街地の方向性が衰退または変化なしの回答が7割近く、また中小企業庁が行った全国の商店街を対象とした調査では、96.6%の商店街が停滞又は衰退していると回答している。

そのような中心市街地、商店街の厳しい状況の中

で、さまざまな議論、提案がなされているが、成功事例に上げられる地方小都市の商店街は少なく、大都市圏との地域格差が存在する。

その数少ない地方小都市の商店街再生の成功事例として、鳥取県境港市の水木しげるロード周辺商店街が取り上げられるようになった。境港出身の漫画家水木しげる氏の妖怪漫画キャラクターのブロンズ像が1992年境港市の商店街沿道に6体設置されて以来、2007年度末までに120体設置整備された。それまで観光客もほとんど訪れない寂れた商店街は沿道が『水木しげるロード』と称され、2007年度には約156万人が訪れるエリアとなった。

本研究は、衰退していた商店街が水木しげるロードとして整備されてきた経緯と整備の進展とともに

\* 鳥取県企画部地域づくり支援局移住定住促進課企画員(執筆時)  
Planner, UJI Turn Promote Section,  
Tottori Prefecture Planning Division  
原稿受理 2008年12月10日

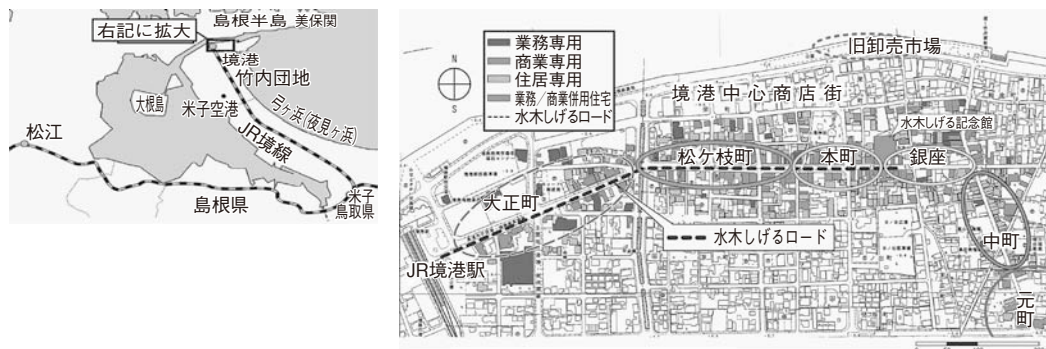


Fig. 1 境港の位置

商店街がどのように変わってきたのか、その変容を明らかにすることを目的とする。

## 2. 既往の研究

地方都市の中心市街地の研究は杉井らの富山市の事例研究<sup>1)</sup>や志村らの全国の地方都市中心市街地を対象にした事例研究<sup>2)</sup>、北陸甲信越を中心とした浅野の事例研究、長岡市の市街地変容に関する井川らの研究<sup>3)</sup>など実にさまざまな実績が積み重ねられている。

また、水木しげるロード整備の特徴であるブロンズ像の妖怪漫画キャラクターは日本の特徴的な文化として脚光を浴びる漫画・アニメの地域振興策の優良な活用事例として扱われるようになった。例えば、2004年中野晴行の『マンガ産業論』、2006年経済産業省中国経済産業局が実施した『平成18年度中国地域におけるアニメ等コンテンツを活用した地域振興方策調査』、『地方財務』2008年1月号の「コンテンツツーリズムによる地域の活性化」等、漫画・アニメのコンテンツ産業を中心とした地域振興策の調査研究が実施されるようになった。しかし、産業振興を中心としたもので、地域の商店街との関連を中心に論じたものではない。

そこで、本研究では妖怪漫画キャラクターを活用して全国的な評価を受けるようになった境港市の事例を水木しげるロード整備と関連の取り組みを中心に分析して、その実態を明らかにしようとするものである。

## 3. 研究の方法

本研究では、境港で実施されてきた水木しげるロードに関連する事業について境港市を中心とする行政の事業関連資料、統計資料、広報誌『市報さかい

みなと』、新聞等で事業の構想時期から約20年間の出来事を検証した。その上で、境港市、境港市観光協会、水木しげるロード振興会の関係者に聞き取りをし、補完して今までの経緯を把握した。また、水木しげるロードとして整備される前の商店街の店舗の状況把握は善隣出版の住宅地図をもとに近隣の住民への聞き取りで確認した。

なお、水木しげるロード周辺の観光形成のためのさまざまな取り組みを「観光活動設計」と定義づけて<sup>4)\*1</sup>変容を分析する。その際、活動できる場をつくり出す取り組みを「空間設計」、魅力を生み出すイベント等を「演出設計」、集客を主としたPR活動等を「誘致設計」と定義づける。さらに、水木しげるロード整備の時期を構想期、初動期、模索展開期、発展期の4期に分けて考察する。

## 4. 境港市と商店街（水木しげるロード）の概要

### 4-1 境港市の概要

境港市は鳥取県の日本海に面する西端で弓ヶ浜半島の先端に位置する面積約28.8km<sup>2</sup>、人口約3万7,000人の水産業、水産加工業を主体としたコンパクトな港町である。島根半島という天然の防波堤に守られた良港としての境港の立地性は、水産業の拠点だけでなく、物資の集散拠点として栄え、1902(明治35)年には境港から米子まで国鉄境港線が開通して賑わい、境港駅からお台場に通じる町筋に商店が発生し、次第に店舗を増やしながら商店街として発展を遂げた。

この商店街は境港の中心地区として、明治、大正、昭和と繁栄してきた。終戦直前の1945(S20)年4月

\*1 参考文献3)の論考に準拠して「観光活動設計」等の言葉を定義づけた。

の軍用船玉栄丸の大爆発事故で岸壁近くの火薬庫に飛び火し、旧境町の3分の1が倒壊・焼失して被災し、1946(S21)年10月に山陰地方で唯一戦災都市の指定を受けた。現在の商店街はこの戦災復興した街が原型となっている<sup>5)</sup>。

しかし、交通体系の変化、大型店の進出、消費者ニーズの多様化、店主の高齢化などさまざまな社会状況の変化により、境港中心商店街では1980(S55)年頃をピークにその後売上げが減少し、閉鎖する店舗が増加し、衰退の一途をたどっていた。このJR境港駅から東側に延びる商店街がいわゆる『水木しげるロード』沿い商店街である

#### 4-2 研究対象地区の概要

JR境港駅から東側に連なる県道境港停車場線(現在の水木しげるロード)沿い(Fig.1)の大正町、松ヶ枝町、本町、銀座、中町に至る商店街の地域を研究対象とする。

大正町はJR境港駅と港湾運輸関連の業務用地が大半を占めていたが、新港建設に伴い整理統合された内港再整備の一環で土地区画整理事業が1991～1995(H3～7)年まで施行された地域である。この沿道を含む周辺9町の人口は1975(S50)年3月末4,089人であったが2007年(H19年)3月末には1,672人と32年間で約6割も人口が減少し、高齢化率も境港市全体の約10%高い33.7%で高齢化の進んでいる地区で、かつては地域生活に密着した商店街だったが、最近ではJR境港駅から水木しげる記念館までは観光地化した商店街へ変化している<sup>6)</sup>。

#### 4-3 境港市の商品販売額の推移

経済産業省の商業統計によると、1991(H3)年に対する2002(H14)年の商品販売額の減少は全国が23.2%に対し、バブル経済の影響が少なかった鳥取

県は13.9%の減少にとどまり、さらに境港市の減少は9.8%と少ない。

ところが、これは郊外の大規模小売店による販売額の増加によって減少がくい止められているのであって、Fig.2のとおり1991(H3)年に対する2002(H14)年個人事業者の減少は非常に大きく、全国が42%の減少、鳥取県は40.2%の減少であるが、境港市は50.2%の半減を越える減少である<sup>7)</sup>。

### 5. 境港の観光活動設計の分析

#### 5-1 時期別の活動内容と事業主体

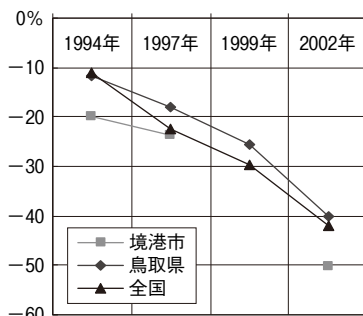
境港市役所内に若手職員14名からなる「街づくりプロジェクト委員会」が1988(S63)年に設置され、『緑と文化のまちづくりフォーラム』に水木しげる氏をパネリストとして招き、商店街活性化のアイデア検討から1992(H4)年の事業着手までの間を①構想期、水木しげるロードに妖怪ブロンズ像が23体設置された最初のオープン1993(H5)年から境港市で実施された『夢みなと博覧会(鬼太郎シアター)』開催の1997(H9)年までを②初動期とし、1998(H10)年の水木しげるロード振興会設立から水木しげる記念館開館の2003(H15)年までを③模索展開期、水木しげる記念館開館後の妖怪ブロンズ全国公募開始の2004(H16)年から水木しげるロードの入込み客が年間148万人を超えた2007(H19)年末までを④発展期として期間を分けて、内容を分析する<sup>8)</sup>。

##### 1) 構想期1988～1992(S63年～H4年)

1988(S63)年に境港市役所内に若手職員14名による「街づくりプロジェクト委員会」がつくられ、市民参加のもと「緑と文化のまちづくり」を策定し、1990(H2)年には『緑と文化のまちづくりフォーラム』を開催した。

地元出身の漫画家水木しげる氏をパネリストに招き、水木氏の作品を町に置いてはどうかの話が本人からでる。この発言が今日の水木しげるロードに至る発端ともいえる。この発言をきっかけにプロジェクト委員の一人が水木漫画の利用を思いつき「水木しげる漫画の妖怪ブロンズ像設置によるまちづくり」をプロジェクト委員会のアイデアとして境港市長に提案する。このアイデアを衰退している商店街の活性化につなげることができないかと自治省で新たに創設された「商店街等振興整備特別事業制度」を利用して商店街振興のための道路改修を検討する。

しかし、地元商店街はもとより市役所内部でもこのアイデアには妖怪に対するイメージの悪さから反



注) 1991年を基点。

出典) 経済産業省・商業統計より。

Fig. 2 個人事業者商品販売額の推移

対するものが多かった。市の担当職員の根気強い熱心な説得によって松ヶ枝町南側の何人かが同意し、アイデアが実現することになった。水木しげる漫画の人気妖怪キャラクターの鬼太郎、目玉おやじ、ねずみ男等6体のブロンズ像が1992(H4)年松ヶ枝町南側歩道に設置された(Fig.3)。また、この同時期の1991(H3)年3月には駅前大正町を含む14.7haで土地区画整理事業が決定公告され、JR境港駅および港湾関連施設の統合整備による、駅前の道路・公園等の公共施設整備が1991(H3)年度に始まる。

このような経緯から明らかなように、「空間設計」である公共整備型の土地区画整理事業はもとより、「商店街等振興整備特別事業制度」を利用した水木しげるロード整備事業は境港市を中心とした行政主導で始まった。また同時期の、1991(H3)年8月に水木しげる氏の自伝『のんのんばあとオレ』がNHKでTVドラマ化され5回にわたって全国放送、翌1992(H4)年8月にも『続のんのんばあとオレ』が同じく5回シリーズで放映されて、水木しげる氏のふるさと境港と妖怪の関係が知られるようになり、地元境港市が関与しないで「誘致設計」的に境港は全国で紹介PRされて事業推進が後押しされた。

2) 初動期1993~1997 (H5~9年)

地元住民の同意を取り付けた松ヶ枝町南側に妖怪ブロンズ像17体が追加され、1993(H5)年7月に水木しげるロード200mに23体のブロンズ像が設置完了(Fig.3上段)して、オープン式典・除幕式が行われた。

水木しげる氏を招いての境港市主催の式典は「演出設計」として機能した。ところが、オープンの3日後に妖怪ブロンズ像が盗まれて、そのニュースが全国放送された。このニュースは経費をかけることなく「誘致設計」的PR効果が大き、他県からの見学者を呼び込んだ。

また、JR境線を走る列車に漫画キャラクターの

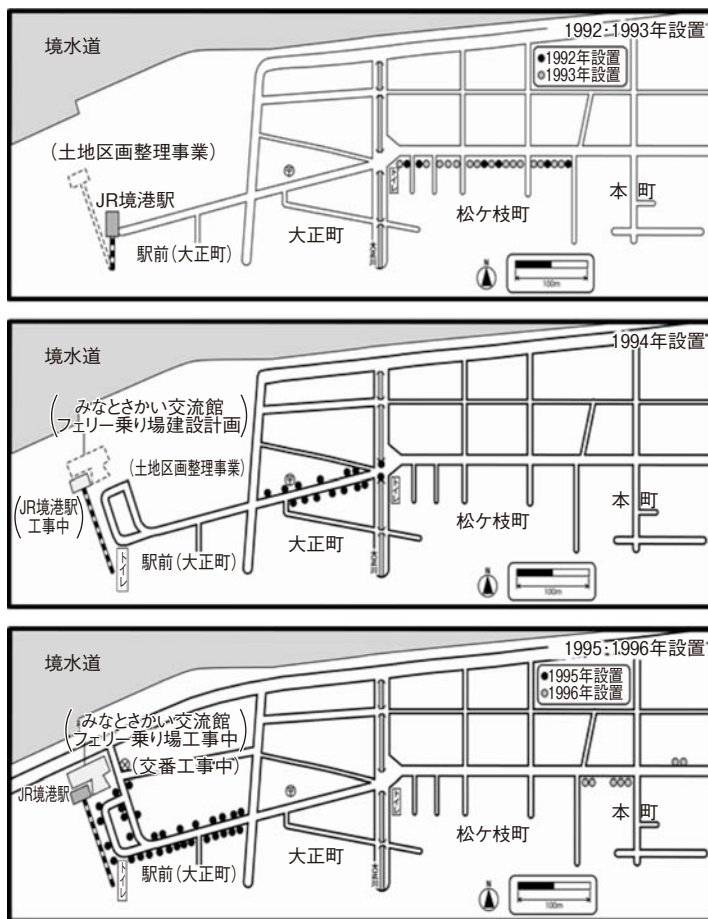


Fig. 3 水木しげるロード (ブロンズ像設置) 整備変遷 1

鬼太郎をペイントした鬼太郎列車をJRが1993(H5)年10月に運行を開始させた。1994(H6)年7月には境港市内の郵便局が妖怪漫画の消印サービスを始めると、郵便局やJR等公共的機関が「演出設計」となる水木しげる氏の妖怪漫画を利用したサービス業務を始めた。このような時期に境港市の水木しげるロード整備に対し1994(H6)年9月鳥取県は景観大賞を授け、翌1995(H7)年7月には同じく建設省は『手づくり郷土賞』を授けるなど、行政機関はお墨付きを与え、事業推進の後押しをした。

この年、境港市は市報『さかいみなと』12月号に市報別冊として妖怪ガイドブックを作成し市民に配布した。これを観光客用に境港市観光協会は再編集して増刷し、100円で販売する。1996(H8)年には商店街等振興整備特別事業が完了し、約800mの沿道に妖怪ブロンズ像80体が並んだ(Fig.3)水木しげるロード完成式典を境港市は8月に水木しげる氏を再度招いて行った。翌日には第1回世界妖怪会議を

水木しげる氏の他、京極夏彦氏、多田克己氏、小泉凡氏（小泉八雲のひ孫）など妖怪に関する著名人をゲストにして開催した。これは、全国から会場に入りきれない多数の人を集めた「誘致設計」である。水木しげるロード全体が完成し、行政主体の「空間設計」事業が一段落するが、1996(H8)年には民間のバス会社が鬼太郎を描いた高速バス、観光バスを運行させるなど民間企業も事業展開に参加する。

翌1997(H9)年は鳥取県が中心となって境港市竹内団地を会場にして中国・四国地方初のジャパンエキスポ『夢みなと博覧会』が官民一体となって開催される。境港市は水木しげる氏監修の『鬼太郎ワンダーシアター』で出展参加し、博覧会場内で第2回世界妖怪会議も開催され、そのものが「誘致設計」である博覧会の集客を水木しげるロードへと誘導を図る。また1997(H9)年7月博覧会開催に間に合うようフェリー乗り場を兼ねた交流施設「みなとさかい交流館」がJR境港駅に隣接して完成した。この建物は1991(H3)年に事業決定された土地区画整理事業による最後の大型「空間設計」だが観光案内所、サウナ、レストラン、展示施設等を兼ね備えた施設で1997(H9)年11月には他の整備も含めて、土地区画整理事業は終了する。

この時期は別々に行われていた行政主体の「空間設計」がほぼ同時に終わり、建設省の『手づくり郷土賞』（2回目）、『ジャパンエキスポ大賞通産大臣賞』を受け、一つの区切りとなる。一部に民間の取り組みが始められるが、この期間は行政主体による「空間設計」が施工され、その空間を使った「演出設計」がなされた時期である。ただ、これらの公共事業は当初必ずしも「観光活動設計」として始められたわけではなく、地域の公共施設の基盤整備と商店街の活性化をメインに意図されたものであった。

### 3) 模索展開期1998～2003(H10～15年)

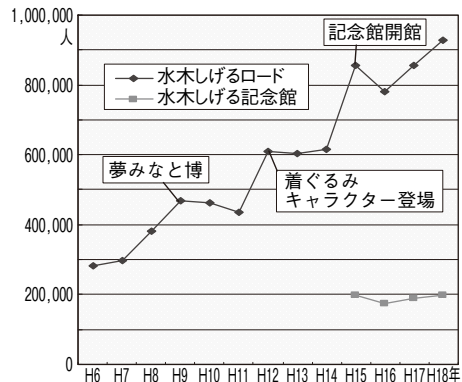
水木しげるロードが完成し、1997(H9)年には境港市を会場にした博覧会も終わり、1998(H10)年は水木しげるロードで今後は何をすればいいのだろうか、模索する時期になる。

水木しげるロード沿いの商店主ら26名の有志は従来の商店街組合とは別に『水木しげるロード振興会』を5月に発足させる。手始めに、水木しげるロード振興会会員店舗に妖怪スタンプを作成し備え付ける。妖怪ブロンズ像の設置後の事業活動方針を決めるため水木しげるロード振興会は境港商工会議所事業の一環として「商店街活性化基本計画」を1998(H10)年

に策定する。この計画には『水木しげる記念館』『妖怪神社』等のハード的な「空間設計」の計画が盛り込まれていた。2000(H12)年には計画とは異なる位置だが『妖怪神社』が民間会社によって建立され、またブロンズ像のモニュメント『鬼太郎の塔』を民間の運送会社が建立し境港市に寄贈した。同社は2001(H13)年に自社倉庫を妖怪イラストのペイントで装飾して妖怪倉庫として様変わりさせている。

このように、財政状況が厳しい境港市の行政に代わって民間主体による「空間設計」事業が行われ始める。水木しげるロードにある郵便局が鬼太郎のブロンズ像を取り付けた妖怪ポストを2000(H12)年設置するとともに、鬼太郎に手紙を書こうキャンペーンを実施する。これは「空間設計」に「演出設計」「誘致設計」を連携させた取り組みである。JRも2代目鬼太郎列車運行を開始させ、移動する「空間」で演出、誘致を促す活動が始まる。2000(H12)年には出雲の10月の神在月を参考にして水木しげるロード振興会が8月を霊在月としたイベントを開催するが、2001(H13)年8月には境港市国民文化祭推進室が妖怪霊在月を制定してイベントをするように提案し、2002(H14)年には国民文化祭プレイベントとして水木しげるロード振興会、境港市観光協会等が中心になって妖怪盆踊り、妖怪灯籠、妖怪ジャズフェスティバル、妖怪探索ツアーなど妖怪に関連づけたイベントを実施する。

一方、境港市では1997(H9)年に基本計画を策定していた水木しげる記念館を夢みなと博覧会の終了後に着手し、翌1998(H10)年には6億6千万円で竣工される予定であったが、境港の基幹産業である水産業の不振等で境港市の財政状況も厳しく反対する



出典) 境港市資料より。

Fig. 4 水木しげるロード観光入込の推移

議員もあって、1998(H10)年1月に計画の一次中断を検討し、市長は同年3月議会で中断決定を説明した。

しかしながら、水木しげるロードの入込客は2000(H12)年には61万人を超える状況(Fig.4)になっていた。その2000(H12)年水木しげるロード沿いの古い老舗の料亭を改装して水木しげる記念館にするアイデアが出る。境港市は2000(H12)年10月に鳥取県西部大震災の被害もあった中、水木しげる記念館設置に反対する意見もあったが自治省の地域総合整備事業の助成期限(H13年度末)に間に合うよう境港市では2001(H13)年6月に補正予算を計上し、『水木しげる記念館』設置に着手することになり、総事業費4億8千万円の経費で建物を取得改修して、2002(H15)年3月に観光活動の核となる施設は竣工した(Fig.5)。

この時期はどのような活動をすべきか商店街の店主らが中心になって「水木しげるロード活性化計画」を作成し、民間企業、各団体は模索しながらも、それぞれ「演出設計」であるイベントの知恵を絞って積極的に実施し、行政機関も2002(H14)年の鳥取県開催の国民文化祭をきっかけにそれらを取りまとめて支援をするようになる。

また、懸案となっていた『水木しげる記念館』を自治省地域総合整備事業の助成期限直前に申請着手して、既存施設の取得改修の手法で核となる「空間設計」を予定より安くしかも広い面積で実現させた。

水木しげるロードの事業完成以降の目玉となる「空間設計」の核となるハードの事業は、この記念館の完成でもって終了する。

#### 4) 発展期 2004～2007(H16～19年)

自治省の助成事業が終了し、また逼迫している境港市の財政状況ではこれ以上のブロンズ像の設置は望めないと、境港市観光協会、境港商店街連合会、水木しげるロード振興会、水木プロダクションで「妖怪ブロンズ像設置委員会」を立ち上げ、妖怪ブロンズ像のスポンサーを2004(H16)年11月に全国公募

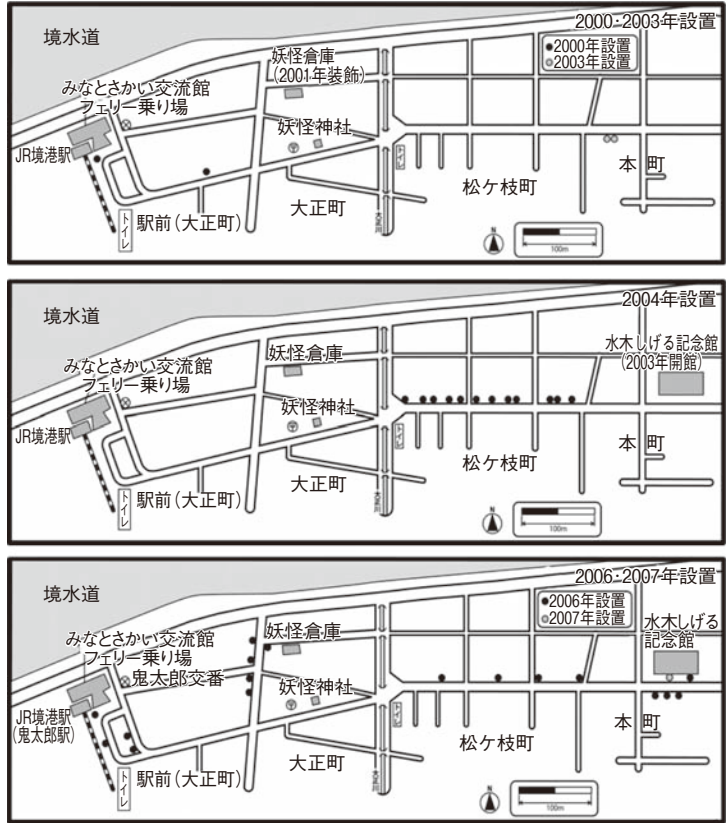


Fig. 5 水木しげるロード（ブロンズ像設置）整備変遷 2

し、86体になっていたブロンズ像を100体までに増やす計画を立てた。これは単なる「空間設計」の整備ではなく全国公募することと寄贈者名のプレートを取り付けることで「誘致設計」的な機能も果たし、1体百万円の負担であったがブロンズ像スポンサーは公募開始から2か月も経たないうちに目標を超える申し込みで期待以上の成果を上げ、2005(H17)年4月には16体が完成して合計102体となった。6月には、合計102体になった妖怪ブロンズ像に加えて5枚の妖怪レリーフ、妖怪倉庫、水木しげる記念館内の妖怪などを紹介した「誘致設計」となる単行本『水木しげるロードの妖怪たち』を境港市観光協会が刊行した。この本は妖怪ブロンズ像が120体になるまで2回改訂され、後に実施される『境港妖怪検定』のテキストとなるがさまざまな取り組みとリンクした「誘致設計」の好事例と言えよう。

7月には11体のブロンズ像が増設され、再度水木しげる氏を招いて、妖怪ブロンズ像の入魂式を実施し、水木しげるロードを大行進した。また、2005(H17)年8月には、水木ロードでもロケが行われた

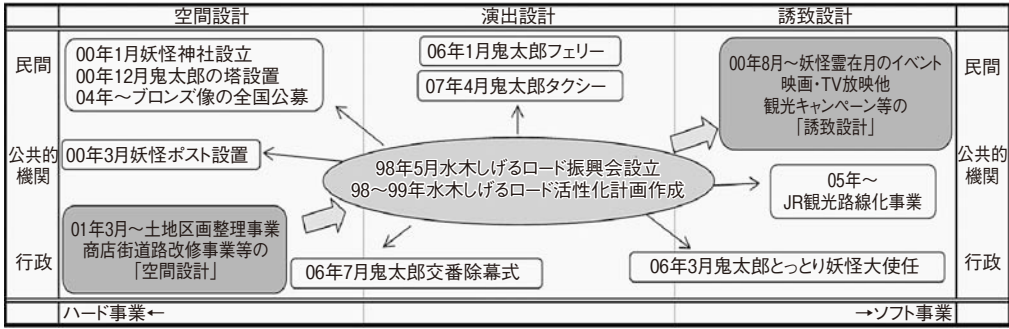


Fig. 6 水木しげるロード関連事業の取り組みフロー図

映画『妖怪大戦争』が全国で封切りされた。JRでは米子駅から境港駅までの16駅を「観光路線化」して駅も妖怪の愛称名、妖怪の装飾を付けて11月に完成させ、車両の妖怪デザインもリニューアルした。

2006(H18)年1月には島根県隠岐青年会議所によって、境港から隠岐までのフェリーに鬼太郎をペイントした鬼太郎フェリーが就航し、2月には『ねずみ男列車』がJR境線に新たに加わって運行した。3月には全国公募最後の妖怪ブロンズ像が設置された。同年3月鳥取県から鬼太郎に「とっとり妖怪観光大使」の称号が与えられ任命式が行われ、今まで以上に鳥取県の観光PRに駆り出されるようになる。行政の方もハード的な事業から、「誘致設計」であるソフト的な事業支援へとシフトする(Fig.6)。

水木しげるロード周辺商店街は2006(H18)年5月商店街活性化の優良事例として評価を受け中小企業庁の『がんばる商店街77選』に選定されて、全国の商店街、議会議員の視察なども増える。7月には、JRが観光路線化の一環で『ねこ娘列車』を運行開始させ、鳥取県警は境港駅前交番に『鬼太郎交番』の愛称をつけ除幕式を行う。妖怪霊在月の8月には新たな企画を境港市観光協会、水木プロダクション等で作る「妖怪そっくりコンテスト実行委員会」で検討し、第1回妖怪そっくりコンテストを実施する。10月には第1回妖怪川柳コンテスト、第1回境港妖怪検定試験も境港市観光協会、境港商工会議所などが協力して実施する。同年10月、境港商工会議所は創立100周年事業で水木しげる氏が山高帽をかぶった姿のブロンズ像を120体目の妖怪ブロンズ像として水木しげる記念館前庭に寄贈設置された。

6. 商店街の業態変化

6-1 商店街事業所・販売額等の推移

Table 1 境港市商店街事業所推移

商店街		平成6年	平成9年	平成14年	平成16年
境港市全体	事業所数	163	196	96	84
	従業者	714	897	398	359
	販売額(百万円)	14,249	16,964	5,893	4,829
松ヶ枝町	事業所数	26	24	30	27
	従業者	77	70	90	94
	販売額(百万円)	1,056	855	1,057	1,009
本町	事業所数	55	33	16	13
	従業者	171	86	63	32
	販売額(百万円)	2,179	934	486	317
元町・新道	事業所数	63	64	50	44
	従業者	367	375	245	233
	販売額(百万円)	9,003	8,592	4,347	3,503

出典) 経済産業省・商業統計より。

商業統計から、境港市全体と水木しげるロード周辺にある商店街の事業所数、年間売上額の推移を見てみると(Table 1)、1994(H6)年と2004(H16)年を比べて、境港市全体では事業所数は163事業所から84事業所へ激減し、販売額は約142.5億円が約48.3億円へと66.1%の大幅減少であった。

しかし、水木しげるロードの中心である松ヶ枝町商店街は事業所数が26事業所から27事業所へと微増し、販売額は10.6億円から10.1億円と4.5%のわずかな減少にとどまった。同じ境港中心商店街でも『水木しげるロード』から離れ、妖怪オブジェが整備されていない銀座中町を含む元町・新道商店街は63事業所から44事業所へ減少し、販売額は約9億円から3.5億円と61.1%も大きく減少している。すでに新道の銀座中町は商店もほとんどなく商店街として形成されていないと考えられる<sup>9)</sup>。

6-2 商店街の業種変容と入込客数

境港市役所通商課が1995(H11)年3月、2007(H19)年3月に行った商店街の業種調査を取りまとめる水木しげるロード沿い商店街の店舗構成はTable 2の

ようになる。

事業所数の総数では変化がないものの、水木しげるロード事業開始当初からブロンズ像が多く並んだ大正町、松ヶ枝町で店舗が増えている。水木しげるロード事業のない中町、整備が最後になった本町でも店舗数は減った。業種内容は菓・化粧品、衣類等の郊外の大規模スーパー、ロードサイドショップで安売りされる生活用品の店が減った一方で土産物、食料品店が微増した。

しかし、店舗数の大きな変化は取扱い商品である。括弧内の数字が示す水木しげる関連グッズを取扱う店舗が12店から33店へ増加している( Table 2)。パン屋、せんべい、饅頭などを人気漫画の妖怪に似せて製造販売したり、酒の瓶を人気の妖怪の型に変更するほか、漫画の入ったTシャツ、携帯電話のストラップ等の小物などを従来の業種の延長線上で販売している。飲食業では船員相手の夜のスナックは減って、昼間のレストラン、土産物店に変わっている。「水木」「鬼太郎」等漫画キャラクターの名を冠する店舗数も7から14へ、平成11年から19年の間に倍増している。境港の水木しげるロードは観光客が増え( Fig.4)、地域生活密着型から水木ワールドの観光地型の商店街へすっかり様変わりしているといえる。

7. まとめ

水木しげるロード周辺の整備を観光活動設計という視点で時期別に活動展開の経緯を活動主体別にまとめると次の結果が得られた。

まずJR境港駅を含む駅前周辺は土地区画整理事業を使ってその基盤となる整備が初動期に行われた。同時期に駅から東側に延びる商店街活性化のための道路改修として水木しげるロード整備が始められていたが、土地区画整理事業とリンクした公共事業としてすすめられたわけではなかった。妖怪ブロンズ像盗難が全国ニュースとなってPRされる幸運もあって、集客効果が上がりブロンズ像設置が大正町に進展し、さらに駅前大正地区の妖怪ブロンズ像設置は水木しげるロード整備の商店街等振興整備特別事業と駅前の土地区画整備事業のタイミングが合っ

Table 2 水木しげるロード沿い業種別事業所数

業種	大正町		松ヶ枝町		本町		中町		計		増減
	H11	H19	H11	H19	H11	H19	H11	H19	H11	H19	
食料品	1	2(1)	4(1)	8(4)	1	1(1)	1		7(1)	11(6)	4(5)
土産物	3(3)	3(3)	3(3)	3(3)	1(1)	3(3)			7(7)	9(9)	2(2)
酒類	1	1(1)	2(1)	2(1)					3(1)	3(2)	0(1)
衣類生活雑貨	1	1(1)	2(1)	2(2)	7	5(3)	4	3	14(1)	11(6)	▲3(5)
自転車・家電	1	1	2		1	1			4	2	▲2
業・化粧品			2		3	2			5	2	▲3
書籍・文具等			2	2(1)	1				3	2(1)	▲1(1)
時計・眼鏡・カメラ					1	1(1)	1	1	2	2(1)	0(1)
その他小売	2	2	4	3(3)	3(1)	2(1)	1		9(1)	7(4)	▲2(3)
飲食業	2	5	7	8	5	4			15	17	2(0)
旅館	5	5							5	5	
理容・クリーニング			2	2	1	2	2	1	5	5	
その他	4(1)	5(3)	4	6	3	2(1)		1	11(1)	14(4)	3(3)
計	20(4)	25(9)	34(6)	36(14)	27(2)	23(10)	9	6	90(12)	90(33)	0(21)

注) ( ) は水木しげる関連グッズ等の販売店。  
出典) 境港市通商課。

加速した。

財政的にいろいろと厳しい状況にあった境港市にとって国、県からの助成が受けられる事業でなければ進められる状況ではなかった。「空間設計」の核となるフェリー乗り場を兼ねた『みなとさかい交流館』も『水木しげる記念館』も公共事業の助成事業なくしては実現しなかったであろう。特に『水木しげる記念館』は境港市の財政状況から計画を一度中断し、自治省の地域総合整備事業の助成期限間際に古い料亭の取得改修の案が出て、ようやく実現した。計画どおりの場所では実現しなかったが安く、しかも広い場所で、水木しげるロードも若干延長される位置関係となり、逆により「空間設計」であったと言える。

水木しげるロードのブロンズ像設置も一度に整備するのではなく(一度に整備できる余裕もなかったこともあり)、徐々に整備を行い、1年ごとにブロンズ像が増えたこと、整備が終わった節目ごとにオープン式典を、水木氏を招いて実施したこと、さまざまなイベントを駅前広場や水木しげる記念館、妖怪神社で行うなど水木しげるロードと一体的に空間活用を行ったことで水木しげるロードへの集客効果があったと考えられる。

「空間設計」の出来上がりが終わりではなく、いかにその活用を図るか民間団体が中心になって知恵を絞り、「妖怪」や水木漫画の人気キャラクター「鬼太郎」等に関連づけたイベントを次々に実施してきたことも大きな成功要因である。映画会社、テレビ



局も水木しげる氏の魅力と地元関係者の働きかけもあって、映画やテレビ番組の制作放映がなされ、その結果、「妖怪漫画家といえば水木しげる」であるが、「妖怪のまちといえば境港」というイメージを定着させて、「妖怪」はある意味で境港の地域ブランドとなっている。それを今後どう多面的に活かしていくことができるかが境港の継続発展を促す大きな鍵である。

#### 参考文献

- 1) 杉井勇太、大村謙次郎「店舗の入れ替わりからみた地方中心商店街の変容と課題—富山市を事例として—」『日本都市計画学会都市計画論文集』No.39-3、pp.31-36、2004年
- 2) 志村秀明他「地方都市中心市街地におけるまちづくり協定の実態と役割—中心市街地再生のための協働型まちづくりの手法に関する研究—」『日本建築学会計画系論文集』No.560、pp.221-228、2002年
- 3) 井川進、樋口秀「地方都市中心部の市街地変容と居住継承に関する研究—長岡市におけるケーススタディー—」『日本都市計画学会都市計画論文集』No.37、pp.589-594、2002年
- 4) 大森洋子、西山徳明「歴史的町並み地区における観光活動設計に関する研究」『第32回日本都市計画学会都市計画論文集』pp.277-278、1997年
- 5) 境港市『境港市三十五周年史』pp.30-34、2001年
- 6) 澤田廉路「地域資源を活かした中心市街地商店街の活性化について—倉吉市、境港市の事例を中心として—」『TORCレポートNo.29』P.77、2007年
- 7) 澤田廉路「水木しげる関連事業と地域マネジメント」『TORCレポートNo.26』P.101、2005年
- 8) 澤田廉路「境港市における観光活動設計のプロセスと今後の課題—水木しげるロード周辺の事例を中心として—」『TORCレポートNo.30』pp.60-75、2007年
- 9) 澤田廉路「地域資源を活かした中心市街地商店街の活性化について—倉吉市、境港市の事例を中心として—」『TORCレポートNo.29』pp.77-78、2007年